



MIS 研究部会

1. 会員構成 日本 OR 学会賛助会員のなかから希望者を募り、昭和 45 年 8 月および 9 月開催の部会発足準備会の参加者を核として構成されている。

松田 武彦 (主査・東京工大)

伊藤 伸一 (日本電気)

岡本 行二 (東芝)

斎藤 賢一 (日本航空)

高村 俊彦 (幹事・東レ)

成川 勲 (帝人)

服部 寛 (三菱電機)

福山 忠彦 (日産自動車)

藤本 幸生 (日本システム開発研)

山岡敬次郎 (三井造船)

吉野 弘人 (北陸電力)

2. これまでの研究経過 研究会は原則として月 1 回開催している。発足準備会以降数回にわたり会員の参加動機、問題意識等を報告しあうことを行なった。これに基づいて主査から、研究活動の枠組としてつぎのような第 1 次案が示された。すなわち

(1) MIS をコーディネーションのための情報システムという側面からとらえる。

(2) コーディネーションをそれぞれに整合性と自律性を有する複数の計画決定システムの相互干渉のシステムとしてとらえる。

(3) この相互干渉の実態論と規範論とからコーディネーションのための情報システムの設計原理を探究する。

この枠組に沿って数回にわたる検討を行なった結果、主査から研究枠組第 2 次案が示されたが、会員の問題意識が組織設計と経営情報システムと題する次の三つに集まっていることがわかった。(1) 情報システムとしての経営組織の解釈、(2) 経営情報の経済分析、(3) 情報の生産・在庫システムとしての経営組織。

そこでさらに約半年間の文献講読、オリエンテーションが行なわれ、その結果、部会として暫定的に次に示すような個別研究テーマを設定し、これを分担実施することにした。

3. MIS 研究部会各個研究テーマ

3.1 情報システムの評価に関する研究

(1) 決定理論的評価枠組の研究

(2) 組織理論的評価枠組の研究

(3) システム理論的評価枠組の研究

3.2 情報操作機能の特性研究

(1) 感知機能の特性研究

(2) 伝達機能の特性研究

(3) 処理機能の特性研究

3.3 情報利用過程の特性研究

(1) 貯蔵過程の特性研究

(2) 整理過程の特性研究

(3) 検索過程の特性研究

(4) 提示過程の特性研究

3.1 は情報の価値の問題、3.2、3.3 は情報の費用に関する問題である。さらに、3.3 は情報と物とのアナロジーがどこまで可能であるかを生産工学的に検討しようとするものであり、データベース設計に役立つことを狙いとしている。

4. 今後の研究の進め方 47年 7 月に個別研究テーマに対する中間結果を持ち寄って 2 日間の合宿による総合検討会を行なう。その結果によりさらに重点テーマを選定し、今後の研究スケジュールなど部会全体としての方針を決定する。なお当部会としては、研究活動の成果を何らかの刊行物の形で残せるようにしたいという希望を持っている。

5. 紹介された主な文献

(1) Ackoff, R., *A Concept of Corporate Planning*

(2) Mesarovic, M. et al., *Theory of Multi-level, Hierarchical Systems*

(3) 飯尾 要『市場と制御の経済理論』

(4) Simon, H., *Programs as a Factor of Production*

(5) Simon, H., *Information Storage as a Problem in Organization Design*

(6) Ansoff, I. et al., *A Language for Organization Design*

その他、D. Hertz, S. Beer, A. Rappaport, 中根千枝等の編著書。